

# 宇治茶に親しみ目指せキッズ「茶ムリエ」

## 小学生51人 検定に挑戦



玉露の美味しい淹れ方を実践する参加者たち

茶香服に挑戦する参加者たち



子どもの頃からお茶に親しんでもらう「宇治茶大好きキッズ『茶ムリエ』検定」が11月1日、小学3～6年生を対象に四季彩館で開催され、51人が挑戦しました。

この検定は、京都府山城広域振興局などの共催で行われ、八幡市では初の開催。子どもたちは、お茶の飲み分け（50点満点）、筆記試験（100点満点）に取り組み、合計得点が105点以上でキッズ「茶ムリエ」に認定されます。

はじめに、子どもたちは玉露や煎茶など、5種類のお茶を飲み分ける「茶香服」に挑戦。茶葉の香りを嗅いだり、お茶を味わったりしながら、真剣な表情で飲み分けていました。

検定の合間には、茶団子づくりやおいしいお茶の淹れ方教室、お茶演劇が行われ、楽しみながら宇治茶を勉強。

最後に筆記試験が行われ、参加者たちは事前学習や演劇の内容を思い出しながら、問題に取り組んでいました。

友達と参加した西村綾佳さん(9)は「宇治茶のことをいろいろ知ることができて良かったし、説明もわかりやすくて楽しかったです」と宇治茶を満喫していました。

## 毎日コツコツ「愛の貯金箱」



硬貨などを仕分ける女性会員たち

「1日1円」を合言葉に、八幡市老人クラブ連合会の会員が毎日コツコツためた「愛の貯金箱」の開封作業が11月17日、福祉会館で行われました。

昭和56年から毎年行われているこの活動は、今年で34回目。今年の2月に約3500世帯の会員宅に貯金箱を配布し、買い物のお釣りなどを貯金してきました。

## 八幡市老人クラブ連合会

会場に集まった女性会員ら約70人は、6つのテーブルに分かれて作業を開始。テーブルの上には開封された硬貨が次々に積み重ねられていき、見る見るうちに善意の山が出来上がりました。会員たちは、慣れた手つきで硬貨を1円玉とそれ以外に仕分けていき、袋に詰め込んでいました。

市内7カ所の郵便局で集計された合計金額は102万9千437円。全額が市に寄付され、福祉のために使われます。

# まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

## 安心して住めるまちづくり

住民の防犯意識の向上、地域の防犯対策と犯罪の抑止を目指して「安全・安心のまちづくり」パレードが11月23日、男山中学校を拠点に開催されました。参加者約1000人が地域を行進し、啓発を行いました。

同パレードは市自治連合会の主催で、市内を6地域に分けて毎年開催されており、今年で11回目です。

出発前の記念式典では、同連合会会長の上原嘉昭さんは「安全・安心のまちづくりの気運も年々高まり、

パレードにもたくさんの方が参加してくれています。安心して住めるまちづくりを八幡市から日本全国に発信していきたい」とあいさつ。また、「安全・安心のまちづくり」に貢献された6人に感謝状が贈呈されました。

パレードでは、パトカーや京都府警平安騎馬隊の先導に続いて、参加者たちが行進。「空き巣にご用心」などのプラカードを掲げ、「安全・安心のまちづくり」を住民に訴えていました。



横断幕を掲げて行進する参加者たち

## 木の実で飾ってどんぐりオブジェ

### 川口コミュニティセンター

11月15日、「どんぐりオブジェ作り」が川口コミュニティセンターで行われ、親子連れら21人が参加しました。

この講座は、自然の物を活用して作品を作り、参加者同士で交流してもらおうと、同センターがはじめて企画しました。

材料には、トトロのペイントが施されたどんぐり、1年かけて採集された松ぼっくりやヤマボウシなど、約50種類の木の実や葉が用意されました。

参加者たちは、どんぐりや木の実に木工

用ボンドをつけて、台となる切り株や太い枝に飾り付け。講師の内田順子さんから「どんぐりは転がりやすいので、木の枝で支えて」などのアドバイスをもらいながら、自分だけのどんぐりオブジェを完成させていました。

おばあちゃんと参加した吉村朋華さん(10)は「どんぐりオブジェは初めて作りました。飾りの置き方に悩んだけど、かわいくできました」と、出来上がった作品に大満足でした。



どんぐりオブジェ作りに取り組む参加者たち